

編集後記

『摂南大学教育学研究』第6号ができあがりました。本年報は、摂南大学教職教室の教員および本学教職課程を修了した卒業者が中心となって、教育に関する理論的および実践的研究交流を目的としています。

本号では、表紙の目次通り、本学教職教室の深川八郎の特別活動に関する研究成果、工学部数物教室の小林俊公先生、寺本恵昭先生の論稿、外国語学部 of R. メイソン先生の本学での新しい英語カリキュラム、ドラマとプレゼンテーションクラスの導入とその実践に関する論稿（邦訳は英語教室の里井先生）、本学卒業後、兵庫教育大学大学院で学び、現在、豊岡特別支援学校勤務の岸田朋子さん、鳴門教育大学大学院修了後、飾磨工業高等学校勤務の松下弘二さんの修士論文に基づく発展的研究の成果、実践報告として朝日先生の交野地域創造塾での講演の報告、本学国際言語文化学部卒で阿波市立吉野中学校教諭の丸山千亜紀さんの小学校外国語活動から中学校英語移行期の中一ギャップに関する報告、さらに2005年度から継続してきた教職教室の共同調査研究の結果を掲載することができました。今後、さらに研究課題の拡がりや深化を図ることができれば幸いです。

教職教室所属以外の先生方はじめ、卒業生の協力なくしては本研究年報の発展もありえません。小林・寺本先生は「数学科教育法」の授業をご担当していただいていますし、メイソン先生には、毎年、本研究紀要の英文タイトルのチェックをして頂いています。また、岸田、松下両君を助けて、教職の専門性を高めるべく、教育系大学院への進学をめざす在学生も増えつつありますので、今後、ふるって本年報に執筆をしていただけるものと思っております。

今年度は、教職OB・OG会の発会（2009.9.19）、文部科学省視察委員による本学教職課程の視察（2010.1.8）等があり、編集作業が幾分遅れた事情がありますが、さらによりよい研究紀要にしていきたいと考えておりますので、みな様のご理解とご協力をいただきたいと思います。

編集委員・幹事 深川 八郎

